

学位授与番号：乙 3 1 3 6 号

氏 名：横山 洋紀

学位の種類：博士（医学）

学位授与日付：平成 28 年 1 月 27 日

学位論文名：

治療関連骨髄異形成症候群と急性白血病に対する造血幹細胞移植：単施設 47 名の患者の解析

主論文名：

**Hematopoietic stem cell transplantation for therapy-related myelodysplastic syndrome and acute leukemia: a single-center analysis of 47 patients.**

（治療関連骨髄異形成症候群と急性白血病に対する造血幹細胞移植：単施設 47 名の患者の解析）

学位審査委員長：教授 山田尚

学位審査委員：教授 本間定 教授 堀誠治

# 論 文 要 旨

論文提出者名	横山洋紀	指導教授名	相羽恵介
--------	------	-------	------

## 主論文題名

Hematopoietic stem cell transplantation for therapy-related myelodysplastic syndrome and acute leukemia: a single-center analysis of 47 patients

Hiroki Yokoyama, Shin-ichiro Mori, Yukio Kobayashi, Saiko Kurosawa, Bungo Saito, Shigeo Fuji, Dai Maruyama, Teruhisa Azuma, Sung-Won Kim, Takashi Watanabe, Ryuji Tanosaki, Kensei Tobinai, Youichi Takaue, Takahiro Fukuda

International Journal of Hematology 2010年92巻2号334-41 ページ

治療関連骨髄異形成症候群と急性白血病の予後は不良である。今回私は国立がん研究センター中央病院で治療した47名の患者(急性白血病31名と骨髄異形成症候群16名)を後方視的に解析したので報告する。33名の患者は、寛解導入療法を受け、73%が完全寛解を達成した。14名の患者は骨髄異形成症候群で緩徐な疾患の進行の経過であったなどの理由により、寛解導入療法を受けていなかった。診断からの観察期間の中央値が1.9年(範囲, 0.05-10.5年)において、3年の全生存率は55%であった。27名の患者が同種造血幹細胞移植を受け、3年の非再発死亡率は17%であった。20名の患者は高齢や合併症などの理由により同種造血幹細胞移植を施行されていなかった。同種造血幹細胞移植を施行した患者は施行しなかった患者より有意に3年全生存率が高かった(71% vs 31%;  $p=0.018$ )。多変量解析においても同種造血幹細胞移植の施行が全生存率に影響する因子として解析された。本研究は少数の患者の後方視的解析であることから選択バイアスが介在することに注意すべきであると思われるが、この結果から治療関連骨髄異形成症候群と急性白血病に同種造血幹細胞移植が生存率を向上させる治療法であることが示唆された。今後は前方向視的にこの結果を確かめていく必要があると考えられる。